

山形市コミュニティファンド補助事業

コロナ禍、震災…苦難を 乗り越切る映画の知恵

東日本大震災とコロナ禍の二大国難に焦点を当てたドキュメンタリー映画の鑑賞を通じ、今後、様々な災害に向き合う貴重なヒントを学ぶ



2024年1月13日（土）14日（日）
両日とも午後1時～4時

**【会場】山形国際交流プラザ（山形ビッグウイング）3階
山形ドキュメンタリーフィルムライブラリー試写室**

山形市平久保100番地

▽1月13日 映画①「平成から令和への道すがら、私が見たものは…」（59分）②「山形でカミュと一緒にアマビエに祈る」（30分）③「札幌、コロナ禍、オリンピック」（14分）上映。トークゲストは、山形県立米沢栄養大学・山形県立米沢女子短期大学学長の阿部宏慈氏、山形市の恵埜（よしの）画廊コーディネーター兼キュレーターの間裕美氏。

▽1月14日 映画④「東北の力 文化の力」（99分）上映。トークゲストは、米沢市 避難者支援センター おいで事務長の上野寛氏、岩手県陸前高田市の一般社団法人トナリノ防災伝承チームの久保玲奈氏。

※4作品全て監督は山形市在住の岡崎孝氏。※両日ともに上映後、ゲストと監督によるトークを行う。

※2日間連続の参加が望ましいが、どちらか1日だけの参加も可能。

入場無料

【主催】映画で男女共同参画を考える会

【後援】山形市芸術文化協会、山形市創造都市推進協議会
復興ボランティア支援センターやまがた

【申し込み・問い合わせ】 岡崎 090 (6255) 0921

※2023年12月1日から受付 鹿野 kano-sekkei@nifty.com

【上映作品解説】

① 様々な「平成最後の」「令和最初の」をキーワードに貴重な映像を撮影し、元号が変わっても震災などの重要な出来事を歴史の奥に押し込めず、後世にどう伝えていくかを考える。「第29回Creative Café山形の映像作家特集～ドキュメンタリー編」（2020年）で初公開。

② コロナ禍では県境を跨ぐことに自粛を求められる異常な日々が続いた。そうした中、あえて山形県内に撮影を限定。文学や美術が災害発生時に果たす役割を考える。山形市男女共同参画センター・ファーラ市民企画講座「コロナ禍を生き抜く映画の力」（2021年）で初上映。

③ ほぼ無観客開催となった2020東京オリンピック・パラリンピックとは何だったのか？マラソンや競歩の会場となった札幌に赴き、公式記録映画とは異なる一観客の目線で、競技や街の様子にカメラを向けた。「コロナカプセルwithオイド短編映画祭」（2023年・東京）で初上映。

④ 東北各地で震災とコロナ禍の二重苦に向き合う人々の姿をとらえる。縄文以来の東北の歴史、独自の文化に災害を乗り越えるヒントがあるはず。そんな願いも込めた。2023年、「令和4年度東日本大震災復興祈念事業（米沢会場）」と「陸前高田防災減災フィールド」などで公開。

1月13日（土）のトークゲスト



阿部宏慈（あべ・こうじ） 山形県立米沢栄養大学・山形県立米沢女子短期大学学長
仙台市出身、東北大学文学部フランス文学専攻卒業。山形大学副学長を経て現職。日本フランス語フランス文学会と日本映像学会に所属する。著書に「プルースト 距離の詩学」など。認定NPO法人山形国際ドキュメンタリー映画祭理事も務める。



間 裕美（はざま・ひろみ） 山形市 恵塾画廊コーディネーター兼キュレーター
鶴岡市出身、東北芸術工科大学芸術学部芸術学科芸術学コース卒業。一般企業勤務後、県内では数少ない企画画廊である恵塾（よしの）画廊でコーディネート、キュレーションのほか、営業運営等全般も行う。

1月14日（日）のトークゲスト



上野 寛（うえの・ひろし） 米沢市 避難者支援センターおいで事務長
福島県南相馬市出身、福島県立小高工業高校卒業。電気部品メーカーに約15年勤務。家業の生花店を継ぐ。東日本大震災では津波被害も経験する。震災後は、米沢市に避難して、避難者支援センターおいでに勤務し避難者支援に携わる。



久保玲奈（くぼ・れいな） 陸前高田市 一般社団法人トナリノ防災伝承チーム
東京都出身、東京都市大学工学部建築学科卒業。東日本大震災発生後、学生時代から岩手県陸前高田市などで被災者支援活動に携わる。卒業後も同市の一般社団法人トナリノ防災伝承チームなどで活躍。防災士、陸前高田市防災マイスターでもある。



【岡崎孝監督プロフィール】

デビュー作は「私たちにできたこと できなかったこと」（2011年）。東日本大震災直後の山形市内で、震災関連の貼り紙や看板など「物」だけを撮影し、逆に当時の「人」の心を浮き彫りにしようとした。山形国際ドキュメンタリー映画祭2011で公式上映。若い女性たちを中心とする「防災ガール」の活動に焦点を当てた第4作「防災やりたい！彼女たち」（2015年）は、同年のBOSAI Fes'（東京都渋谷区主催）で初公開。「家族でBOSAIワークショップ」（2023年、兵庫県伊丹市）のイベントとしても上映された。主な著述に「東北学02」（東北芸術工科大学 東北文化研究センター責任編集）掲載の長文エッセー「『3・11』後、映像作家にできること」などがある。元新聞記者、山形市芸術文化協会会員。